

令和8年1月15日 令和7年度奈良県学校長研修大会 大石教育長挨拶

令和7年度 奈良県学校長研修大会の開催にあたりまして、御挨拶申し上げます。

校長先生方におかれましては、平素から子どもたちのために魅力ある学校づくりに御尽力いただいていることに、心より御礼申し上げます。

私も校長を務めさせていただいたことがあるのですが、先日、ある休日に駅のホームで電車を待っていると、その時の生徒が声を掛けてくれました。その生徒は今、大学予備校に通っているとのことで、休みの日も自習室を利用して勉強しているようです。そのために親が弁当を作って持たせてくれるのだそうですが、それが申し訳ないと言うのです。自分は何も成し得ていない、それなのに休みの日まで世話を掛けている、と。あなたの親はあなたのために何かできること、応援することが喜びなのであって、そこは甘えればよいと話しながら、こういう若者がいることに感じ入り、その幸せを願わずにはいられませんでした。また、こんな生徒達のために、自分は校長としてもっと何かできたのではないかと、今更ながら思いました。

校長は、リスク管理や諸々の決断など、多くの責任を負う職ですが、何を置いても教育者であることを忘れてはなりません。任された学校の子供達に焦点を当てて務めるものだと思います。

私は校長として、何より生徒との対話を大切にしたいつもりです。着任して最初に生徒会長と話をし、全校生徒への挨拶ではいつでも校長室に来るように伝えましたが、何より節目節目の式辞の内容、表現については、時間を掛けて考えるよう心掛けていました。こちらの思いを、これほどしっかりと伝えられる機会はありませんから、校長に与えられた「黄金の時間」だと、今も思います。

ところで、みなさんは NHK の「みんなのうた」という音楽番組はご存じですね。2025年2・3月期に放送された「校長センセ宇宙人説」という歌はご存じですか。YouTube では再生回数が53万回を超えるなど、結構知られているのですが、歌に「クラスの男子」「2組の女子」が登場しますので、おそらく小学生の子ども達が、題のとおり、校長先生を宇宙人だと疑っているという、それだけと言えばそれだけの歌です。

ただ、その校長先生の口癖とされるのが、「人を愛する人になりなさい」「人をゆるせる人になりなさい」「ばかげた夢こそ見つづけなさい」「変わらない世界を変えなさい」という、単純ですがメッセージ性の強い言葉で、先生が転任でいなくなり、大人は忘れてしまった後も、子ども達は先生のことを覚えている、という内容です。

「人を愛する」「人をゆるせる」「夢を見る」といったことは、人が備えるべき大切な力だと思います。大人になってもこれを欠き、それぞれの正義を振りかざす不寛容な振る舞いが摩擦や軋轢

を生むことで周囲が苦しむといった例は、枚挙に暇がありません。

学校は万能ではなく、私達が子ども達にできることは限られているとは思いますが、家庭を離れ、一定の集団で行われることを前提とする「学校」という教育システムを、私は信じています。極端なことを言えば、教科書に書いてあることを知識として身に付けるだけなら、「自学自習」でもできます。では何のために「学校」は存在するのか。それは、学校を出てからの方がはるかに長い人生を歩く旅支度、特に家庭ではできない経験をするためだと思うのです。

子ども達の旅路に必要な「共感」と「寛容」は、家族以外で構成される仲間の中で育つものです。「人を愛する」「人をゆるせる」、つまり「共感」と「寛容」、さらには「夢を見る」、つまり希望をもつ、といった大切なことを、この歌の校長先生は教えてくださっているのであり、この先生と出会うことは、家庭にいてはできなかったでしょう。学びに目を向けると、「学校」の存在意義は、例えば仲間と話し合って自分以外の人の考えを知ったり、知るだけでなく理解しようとしたりすることで、独りよがりではない多面的なものの見方を身に付け、「知識」を生きて働くものとするところにあるのであり、私達はそういった場面、機会を学校教育に意図的につくらなければなりません。そうして創出した場における先生方の関わりをデザインなさるのが校長先生方だと思います。御期待申し上げます。

本日の研修大会は、小・中・高・特別支援学校の校長先生方が一堂に会し、校種を越えて研究発表、研究協議が行われる、またとない機会です。同じテーマでも、他校種の取組を直接聞くことはそう多くはありませんので、今日が有意義な一日となり、本県教育の充実、子ども達により多くの裁量が認められ、家庭ではできない、学校でなければできない教育の実現につながることを期待します。

最後になりましたが、本研修大会の益々の発展と皆様方の御健勝を祈念し、御挨拶とさせていただきます。